

今年の1月は例年になく厳しい寒さに見舞われました。

しかし私たちの団体では
九州福岡が、熱い1月となりました。

◆九州地区・漢字教育研修会、西日本新聞も取材

- 全専日協は、事業計画の柱として「情報の共有化」「教育力の向上」「学生への支援と指導」を掲げ、4つの委員会で行っています。

このうち「教育研究委員会」では、去年6月の総会で「こんなカンジで漢字教育」と題した実践報告会を開きました。これは非漢字圏からの学生が増える中、毎日留学生と向き合い試行錯誤を重ねている教師の皆さんの教育力の向上に役立ててもらおうと企画されたものでした。

終了後のアンケートでは「地方でも多くの教員が求めていると思います。」「3~4人で自由に意見交換できたらいいなと思いました。」といった声が寄せられました。そこで、岩本 仁副会長を中心に話し合いをもち、九州地区で研修会を開く計画を立ててきました。



- 実現したのは1月27日（土）でした。
午後1時、福岡市東区にある学校法人福岡成蹊学園 福岡外語専門学校に30人の教師の皆さんが集まりました。冒頭に岩本副会長の挨拶で会がスタートしました。そして事例発表の最初は、地元福岡国土建設専門学校の門司 剛（もんじ つよし）日本語学科長でした。

『真摯に漢字学習に取り組んだ非漢字圏学生の中には、中国人の学生より漢字の成績が上になることが少なからずあります。大切なのは漢字に対する意欲をどう高め苦手意識をなくすかということです。そのためには、初めは極端にゆっくりしたペースで学習を開始しテストで良い点数を取れるようにします。この時基本的な漢字「木、日、土、田」などを覚えてもらい、複雑に見える漢字も、基本の組み合わせで作られていることを理解してもらいます。また漢字学習は「復習」という王道あるのみです。本校では、はねやとめを意識してもらうため、筆を使った水習字も初期段階で実施しています。大事なのは苦手意識を持たせず、初期段階からテストで結果を出させることです。人は結果が出ると努力を続けられる生き物です。教師は常に、励ましほめることが肝要なのだと思います。』

- 続いて、非漢字圏の留学生への漢字教育について実践報告に立ったのは横浜デザイン学院の佐久間 みのり先生でした。

『本校では、2012年頃から多国籍化が進み、漢字教育について考えるようになりました。初級では500字ぐらいから漢字の学習を始め、毎日1時間を漢字の学習にあてています。工夫したのは、学生一人ずつにホワイトボードを配布し練習することです。学生が連想して漢字や語彙を書いた漢字語彙マップを作ります』と、具体的な教室活動を入れての発表でした。



- 文化外国語専門学校の杉田 昌俊先生からは、非漢字圏に限らず広く漢字教育についての発表がありました。

『学習する語彙はメインテキストの中から選んでいます。漢字圏の学生であっても自国の漢字との意味や字形、使い方の違いを意識させます。具体的には漢字語彙リストやPPT教材などを作成しています。』と話し、その教材や授業の進め方が紹介されました。

- ✚ 発表の間には、30人の参加者が4つのグループに分かれて討議し、それぞれに話し合ったことの発表が行われました。

「ほめることで最初の動機付けが大切なのだと話し合いました」

「自校では漢字教育の授業が15分しかなく、時間が足りませんでした」

「漢字教育のITツールなど様々ですがどこまで使うか悩みだと話しました。」

こうした声が上がりました。



グループ討議の様子



全体へのシェア



最後は空港で一枚

✚ また研修会のしめくくりにかかれたアンケートの声も充実していました。



Q1、実践報告はいかがでしたか？

- ・他校の取り組み、実践内容を知ることが出来てよかったです。
- ・情報やアイデアをたくさん得ることができました。
- ・小さな工夫で学生の意欲につなげることが出来ると知りました。
- ・単調になりがちな漢字の授業をもっと楽しくしたい。

Q2、グループ別協議を取り入れた進め方はいかがでしたか？

- ・聞くだけの一方的な研修ではなく参加型でためになりました。
- ・具体的な質問にグループの先生から意見を頂けた。
- ・途中から目的や方法の共有がされ、話し合いが進んだ。
- ・他の学校の話がきけるのは、とても刺激になりました。

Q3、研修会に参加して何か得るものはありましたか？

- ・学生のモチベーションの持たせ方など明日から使えるアイデア。
- ・ホワイトボードや語彙マップなどを実践してみようと思います。
- ・自分の教育を振り返る機会になった。
- ・他校の取り組みを持ち帰り、次年度からの授業に反映させます。

Q4、今後、どのような研修、企画を希望しますか？

- ・作文の指導 ・発音の教え方 ・会話指導 ・語彙の授業
- ・心理学からのモチベーションアップの方法
- ・地方にいと学ぶ機会が少ないので、福岡でデジタル教育などの研修
- ・アクティブラーニングやコミュニケーション学を絡めた企画

- 今回、九州地区研修会で嬉しかったことは、地元の西日本新聞社が取材してくれたことです。西日本新聞はシリーズ「新移民時代」で留学生をめぐる課題を鋭く世に問うたところでした。

取材に来てくれた社会部の西田 昌矢記者は「私たちジャーナリズムは問題のある所だけでなく真剣に教育に取り組んでいる学校も知りたいと思っています。一日皆さんが話し合っている姿を見て、とても楽しい思いがしました。」と話しました。

研修会の模様は、翌日の「新移民時代」の紙面で取り上げられました。今後もあくまで留学生のための教育をめざしてジャーナリズムとも連携していきましょう。

【添付：西日本新聞の記事】

◆ 活動が活発になる年度末、

手帳にスケジュールを！



- **2月5日(月)**: 第30回「日本語弁論大会」を大阪で開催。
大阪市西区の大阪YMCA国際文化センターに13校の留学生が集結します。はたして今年度の最優秀は？
- **2月23日(金)**: 執行役員会に副会長・監事の皆さんが集まり、3月の理事会総会に向けての懸案を話し合います。
- **3月26日(月)**: 全専日協 理事会・総会を開きます。当日は、日本語議連の馳浩事務局長の講演などを予定しています。詳しい式次第は、決まり次第お知らせします。年度末で忙しい時期ですので、早めに予定に入れておいて頂ければ幸いです。

◆ 「ゼンセン Topics」 寄稿のお願い

- 会員校の最新的话题を皆さんにお伝えする「ゼンセン Topics」を募集中です！皆さんの学校での取り組みや日常の風景などを写真付きの記事で紹介します。事務局まで、お送りください。お待ちしております。

2018年1月31日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当



1/27 朝 羽田空港にて